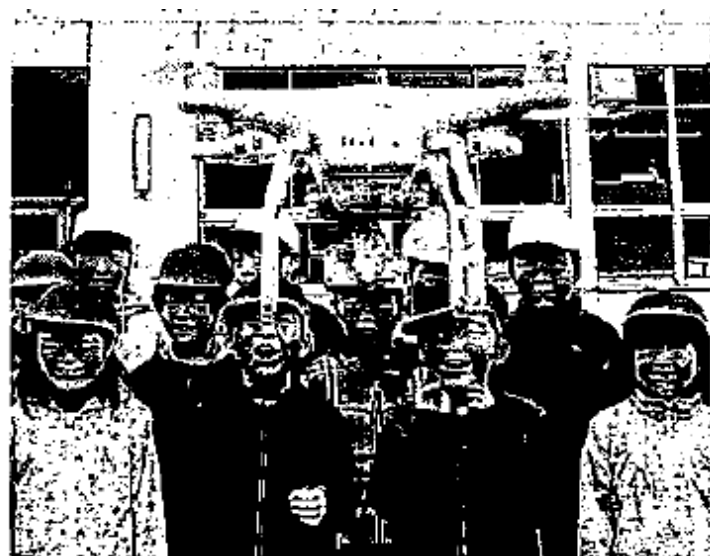


# 地震の被害状況 ドローンで学ぶ

—関・本寺小

2008年の岩手・宮城内陸地震での被害を忘れないようにと、当時被災した一関市厳美町の本寺小学校（佐々木竜哉校長、児童23人）で27日、災害の調査などに利用されるドローン（小型無人飛行機）を体験する学習会があった。

震災伝承の学習では、阿部功・一関市建設部次長が自らの体験を交えて当時の被害や避難状況について説明。崩落した祭時（まつるべ）大橋や地滑りの現場をドローンで撮影した映像が映し出されると、児童らは「こわーい」と口々



に言い、改めて地震の恐ろしさを感じていた。

復旧工事に携わっている「復建技術コンサルタント」の技師が校庭でドローンを飛ばすと、児童らは「おっ、すごい」。空を見上げて手を振り、上空のカメラから映される映像をモニターで確かめていた。（岡田和彦）